

県政の今後の課題

今日、我々をとりまく経済社会環境は非常に厳しいものがあります。とりわけ日本経済は、オイルショック以後長期的な低速を続けており、安定成長の軌道にまだ乗り切れない状況にあります。また、身近なところに目を向けても、構造不況業種問題の深刻化、農産物の輸入枠拡大に伴う本県産品と外国産品との競争等様々な問題が山積しております。

本県においては、いままでのところ様々な問題を抱えながら、比較的順調な発展の道を進んでまいりましたが、今後ともこの状況で推移するという保障はありません。こういう時こそ、足跡をさらに確実なものとし、生活の真の豊かさ、人間としての生きがいのある暮らしを目標に、各般の施策を進めていく必要があります。

従来から県政運営の基本理念として「人間尊重、生活優先」をかけた、県民生活と地域開発の調和を目指し、豊かな住みよい社会の形成を基本目標として積極的に県政を推進してきましたが、ますますこの推進に努めなければなりません。また、今後予想される厳しい情勢下にあつて、今まで以上に県民一人ひとりの真摯な努力と叡智の結集が期待されま

す。

このような認識に立ち、今後の県政推進に当たっての課題を考えてみたいと思ひます。

一 基盤整備と産業の振興

豊かで住みよい社会をつくるためには、雇用を高め、所得を増大させることが基礎的な課題です。

本県は気候的にも、資源的にも恵まれ、今後の発展が期待される中国大陸や東南アジア等の地域に近いという地理的条件の優位性にもかかわらず、経済開発が立ち遅れ、所得水準も低位停滞を余儀なくされているのは、東京・大阪等の大集積地との地理的遠隔性を克服できず、また、基本的には開発投資が大都市地域、瀬戸内海地域に偏って行われたことによるものといわざるを得ません。本県の後進性を脱却し、国土の均衡ある発展を実現するためには、本県のもつ開発可能性を十分に発揮するよう、交通通信体系の整備を重点的に進め、基盤整備を推進し、地域開発と産業の振興を図る必要があります。この場合において、本県は自然が比較的良好に保全されており、これとの調和を図りつつ適正な規模で開発

を進めるとともに、地域の利益となる開発を選択しなければなりません。

二 福祉の充実・真の豊かさの追求

基盤の整備も産業の振興も、本来住民の福祉を究極の目的としたものです。経済発展や所得の増大は、それ自体が目的ではなく、豊かな生活のための一条件にすぎません。そこで人間性豊かな生活を享受できる社会の建設が必要ですが、本県は全国に比較し高齢化が進むと考えられ、老人福祉の充実には特に力を入れる必要があります。また、これからの県政推進に当っては、物質的豊かさもさることながら、精神的充実を追求するものでなければならず、社会福祉の充実と健康の増進やレクリエーション活動の推進、芸術文化の振興等きめ細かな施策を強力に推進する必要があります。

三 全人教育の推進

いかなる時代にあつても、社会を構成し、行動するのは個々の人間です。今後予想される多様な変化に柔軟に対応するためには、学校教育はもちろん、社会のあらゆる場を通じた教育の充実を図らなければなりません。これまでも、教育は県政の重要課題として重点的に実施してきましたが、今後、国際化等経済社会は急速に変化するものと考えられることから、教育の充実にはなお一層の行政努力を傾ける必要があります。

四 地域格差の是正

本県全体についてみれば、人口も増加に転じ、所得も順調に伸びていますが、県内を地域的にみると自然、地勢的条件等の諸条件の相違から、人口の減少が続いている地域も多く、所得格差はもとより文化、教育等においてもかなりの格差があります。

県土の均衡ある発展と、地域住民の充実した生活のためにも、地域格差の是正は急務であり、また、この実現への努力は第三次全国総合開発計画で提唱された定住構想の理念にもかなうものと考えられます。

以上のような問題のほか解決すべき課題は多く、これらの課題のどれをとっても、その達成のためには多大の努力を必要とする問題ばかりです。このような課題が達成されても、それだけでは、真に豊かな人間性あふれる社会はできません。地域の住みよさは、そこに住む住民一人ひとりが自分の町を、村を、真に住みよいところにしたという意識をもち、行動を積み重ねていくことによつて初めてできあがるものではないでしょう。

近年、経済の発展と人口の流動化により、地域に対する愛着がうすれてきているといわれています。ここで改めて、真の地域社会とは何か、真の住みよさとは何かを問い直し、連帯感にあふれた、心のふれあいのある地域社会を県民総ぐるみで築き上げる必要があります。

(企画課)